

医療ドラマを書きたい人のための「現場のリアル」

「作家のマナビバ」 医療編 第3回

エンタメの世界で犯罪モノと並び人気を誇っているのが医療モノです。人気ジャンルの医療ドラマに取り組んでみたい、でも、専門用語がよく分からないし、自分の経験とテレビドラマ以上の情報がない。

だったら、百聞は一見にしかず。本当のお医者さんに聞いてみましょう！

「作家のマナビバ・医療編」では、医療の最前線で現役として活躍されているプロフェッショナルを招き、「医療現場のリアル」をお話していただきます。

今回お招きするのは、「子どものころ」の専門家。子どもを巡る痛ましい事件が伝えられる度に感じる数々の「なぜ?」、子ども時代の虐待やいじめは成長にどう影響するのか、つらい体験があっても健康でいるためには?…半径 5 メートルの経験談で判断することなく、豊富な研究データに裏付けされた専門家の声に耳を傾けましょう。

作家のマナビバ「子ども時代の体験は、人生にどんな影響を与えるのか？」

※子ども時代の逆境的な体験(虐待・ネグレクト・離別など)がライフコースに渡って心身に与える影響は?それはなぜ?

※虐待などのつらい体験から子どもを守るためにできることは?

※心疾患、うつ、アルコールの問題…苦しいのは本当にその人だけのせい? 人生のストーリーに目を向ける

※「産後うつ」…保護者のこころの SOS に気がつくこと

現役の医師が語るリアルな話の中に医療モノ創作のヒントを見つけましょう!

日時:2019年6月1日(土) 午後7時~8時30分(開場 午後6時30分)

会場:フォーラムエイト(Tel.03-3780-0008)

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 2-10-7 新大宗ビル(ハチ公改札口から徒歩 5 分)

受講料: 3,500円(一般) 3,000円(学生・東京作家大学受講生)

お申し込みは日本放送作家協会のホームページウェブサイト w.hosakkyo2012.jpより

講師: 山口 有紗 (やまぐち ありさ) 氏

小児科専門医。専門は子どものこころ。目指しているのは、「子どもとその周囲が、少ししんどいときにこそ、安心してつながることのできる社会」。高校を中退後、単身渡英。帰国後は働きながら児童養護施設や不登校の子どもとかかわる。

大検取得後、国際関係学部で開発支援や母子保健を学び、約 30 の国や地域を歴訪。卒後医学部に編入し、医師免許取得。大学病院小児科などを経て、現在は国立成育医療研究センターこころの診療部や児童相談所などで子ども・家族のこころの診療に従事している。診療の傍ら、子どもに関わる多様な専門家がつながるコミュニティ「子ども専門家アカデミー」を主宰。

